



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月13日

上場会社名 阪和興業株式会社

上場取引所 東

コード番号 8078 URL <http://www.hanwa.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 古川 弘成

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員

(氏名) 森口 淳宏

TEL 03-3544-2197

四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	1,227,678	10.1	11,475	38.0	10,797	82.3	5,922	79.0
25年3月期第3四半期	1,115,413	△4.9	8,316	△34.2	5,922	△49.0	3,309	32.8

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 14,694百万円 (650.5%) 25年3月期第3四半期 1,958百万円 (△46.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	28.58	—
25年3月期第3四半期	15.97	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	612,352	130,994	21.0	619.36
25年3月期	552,908	120,674	21.4	570.50

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 128,345百万円 25年3月期 118,232百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	4.00	—	8.00	12.00
26年3月期	—	6.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,660,000	9.8	15,800	26.5	14,000	57.8	8,200	73.7	39.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	211,663,200 株	25年3月期	211,663,200 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	4,438,238 株	25年3月期	4,421,912 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	207,231,463 株	25年3月期3Q	207,267,088 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信【添付資料】3～4ページ「1.(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### 【経済環境】

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、債務上限問題を回避して総じて上向きに推移した米国や債務危機問題が小康状態にあった欧州など先進諸国の経済環境は概ね順調に推移したものの、中国は金融政策面での制約の中で有効な景気浮揚策が打ち出されず、堅調だった新興国も金融緩和の縮小を見越したリスクマネーの収縮により金融環境が引き締まったために経済成長が鈍化するなど、全体的にまだら模様の状態にありました。

一方、国内経済におきましては、いわゆるアベノミクス政策や日本銀行による異次元緩和策を好感した株式相場の上昇や円安基調への転換に続き、個人消費や設備投資が持ち直した他、公共インフラの整備や民間建設投資、消費税率引上げ前の住宅需要の増加などにより実需が本格的に回復してきました。円安による原燃料価格の上昇やそれらに伴う貿易収支の悪化、建設投資の急増による各方面での人手不足などの課題もありつつも、全体的に明るい環境となりました。

#### 【業績の概況】

このような環境において、当第3四半期連結累計期間の売上高は、鉄鋼事業や石油・化成品事業の増収などにより、前年同期比10.1%増の1兆2,276億78百万円となりました。また利益面では、当第2四半期連結会計期間からの鉄鋼市況の回復などにより、在庫商品の販売採算が改善したことなどから、営業利益及び経常利益はそれぞれ前年同期比38.0%増の114億75百万円、82.3%増の107億97百万円となり、第3四半期純利益は特別損失が減少したことなどから、前年同期比79.0%増の59億22百万円となりました。

#### 【セグメント別の状況】

鉄鋼事業においては、堅調に推移していた製造業分野に加え、建設分野においても民間の商業・物流施設案件や復興・復旧案件、インフラ整備などの出件が増加しました。停滞していた鋼材市況も、条鋼類を中心とした実需の増加を反映して当第2四半期連結会計期間から上げ基調に転じたことから、在庫商品の販売収益が好転しました。これらの結果、当事業の売上高は前年同期比11.8%増の5,922億87百万円、セグメント利益は前年同期比51.7%増の99億24百万円となりました。

金属原料事業においては、ニッケルやステンレススクラップの価格はステンレス需要の低迷や投機資金の商品市場からの流出などにより軟調な推移となりました。ステンレス原料の販売が停滞する一方で、ニッケル化合物や鉄鋼メーカー向けの合金鉄販売が増加し、収益を押し上げました。これらの結果、当事業の売上高は前年同期比0.3%減の715億9百万円となりましたが、セグメント利益は前年同期比300.8%増（約4.0倍）の9億90百万円となりました。

非鉄金属事業においては、銅やアルミなどの国際市況は下落基調にありましたが、円安の進行により円貨での価格は上昇しました。スクラップの仕入れコスト上昇により収益の取りにくい環境が続く中で、貴金属屑類の拡販を進めたことなどが収益に寄与しました。これらの結果、当事業の売上高は前年同期比8.9%増の570億19百万円、セグメント損益は3億43百万円の利益（前年同期は1億46百万円の損失）となりました。

食品事業においては、国内需要は引き続き低調に推移しましたが、円安に転換したことにより、それまで行き過ぎた安値にあったサケやエビなど主力商材に価格修正の動きが入り採算が改善するとともに、為替差益の発生も収益を押し上げました。これらの結果、当事業の売上高は前年同期比9.1%減の627億75百万円となったものの、セグメント利益は前年同期比162.7%増（約2.6倍）の14億8百万円と

なりました。

石油・化成産品事業においては、中東情勢や金融環境などの影響により原油市況は上下しましたが、製品価格は円安の進行を受けて高い水準を維持しました。激しい販売競争が継続した産業用燃料や円安の影響を受けた合成樹脂加工品の採算は低迷したものの、海外積みの舶用石油の拡販が収益増加に貢献しました。これらの結果、当事業の売上高は前年同期比11.7%増の3,579億79百万円、セグメント利益は前年同期比13.0%増の13億39百万円となりました。

その他の事業においては、主に木材事業での出荷増加により、売上高は前年同期比19.5%増の1,494億94百万円となりましたが、セグメント損益はHANWA SINGAPORE (PRIVATE) LTD.の東南アジア域内での非鉄金属事業の採算低迷やレジャー機械の完工がなかったことなどにより、77百万円の損失（前年同期は9億71百万円の利益）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### 【総資産・負債純資産の状況】

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、売上高の増加に伴う売上債権の増加や新たに連結した子会社のたな卸資産が加算されたこと、保有する上場投資有価証券の価格上昇などにより、前連結会計年度末比10.8%増の6,123億52百万円となりました。

負債は、売上高の増加に対応した仕入債務の増加や運転資金需要の増加による短期借入金や社債の増加などにより、前連結会計年度末比11.4%増の4,813億58百万円となりました。そのうち、有利子負債は、前連結会計年度末比9.3%増の2,581億56百万円となり、当第3四半期連結会計期間末のネット負債倍率は、1.8倍となりました。

純資産は、第3四半期純利益の積み上がりに加え、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の増加などにより、前連結会計年度末比8.6%増の1,309億94百万円となりました。しかしながら、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は、負債の増加幅の方が大きかったため前連結会計年度末の21.4%から21.0%に低下しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

### 【当期の見通し】

米国経済は緩やかな足取りながらも回復軌道にあり、欧州経済も債務危機に対する不安感が後退し、持ち直しの機運が感じられます。また、中国経済もシャドーバンキング問題を含む金融バブルへの懸念が燻ってはいるものの、中央政府の景気制御により緩やかな拡大が続くと思われれます。一方で、新興国経済は世界的な金融環境の変化に左右され、停滞した状況が続くと予想されます。

国内経済では、アベノミクス政策や日本銀行の異次元緩和策の効果、消費税率の引上げに伴う駆け込み需要などから、建設分野や個人消費など内需が増加しております。労務を始めとする人手不足の問題や、電力コストや円安による原燃料価格の上昇など景気の下押し要因もあるものの、復興需要を含めたインフラ投資の本格化や各方面でのオリンピック効果なども見込まれ、堅調な推移が期待されます。

当社グループとしましては、このような事業環境の中にあっても、各事業分野における需要動向を的確に把握し、取引先のニーズを反映した適切な販売・在庫政策を進めるとともに、新規取引先を積極的に開拓することにより、業績の維持・向上に注力していく所存です。

なお、連結業績予想につきましては、平成25年11月7日に発表しました業績予想に変更はございません。現時点における通期の連結業績は、売上高1兆6,600億円（対前期比9.8%増）、営業利益158億円

(対前期比26.5%増)、経常利益140億円(対前期比57.8%増)、当期純利益82億円(対前期比73.7%増)を見込んでおります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税金等調整前四半期純利益に一時差異に該当しない重要な差異等を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,285	20,890
受取手形及び売掛金	293,752	325,696
有価証券	—	2,000
たな卸資産	96,609	109,035
その他	22,505	21,670
貸倒引当金	△852	△946
流動資産合計	435,301	478,346
固定資産		
有形固定資産		
土地	29,582	32,780
その他(純額)	25,485	28,574
有形固定資産合計	55,067	61,354
無形固定資産		
	736	1,864
投資その他の資産		
投資有価証券	39,317	50,445
その他	25,565	21,913
貸倒引当金	△3,080	△1,572
投資その他の資産合計	61,802	70,787
固定資産合計	117,607	134,006
資産合計	552,908	612,352

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	164,301	184,351
短期借入金	113,500	126,245
コマーシャル・ペーパー	11,000	8,000
1年内償還予定の社債	10,050	10,050
未払法人税等	2,971	546
賞与引当金	1,891	1,168
その他	18,247	23,837
流動負債合計	321,962	354,200
固定負債		
社債	20,000	30,000
長期借入金	80,625	82,782
退職給付引当金	220	333
その他	9,425	14,042
固定負債合計	110,270	127,158
負債合計	432,233	481,358
純資産の部		
株主資本		
資本金	45,651	45,651
資本剰余金	4	4
利益剰余金	72,867	74,428
自己株式	△1,434	△1,441
株主資本合計	117,088	118,643
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,667	9,937
繰延ヘッジ損益	120	49
土地再評価差額金	116	116
為替換算調整勘定	△1,761	△400
その他の包括利益累計額合計	1,143	9,702
少数株主持分	2,442	2,648
純資産合計	120,674	130,994
負債純資産合計	552,908	612,352

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,115,413	1,227,678
売上原価	1,083,199	1,189,787
売上総利益	32,213	37,891
販売費及び一般管理費	23,896	26,415
営業利益	8,316	11,475
営業外収益		
受取利息	599	618
受取配当金	368	460
為替差益	—	636
その他	566	722
営業外収益合計	1,533	2,438
営業外費用		
支払利息	2,188	2,199
為替差損	506	—
その他	1,233	917
営業外費用合計	3,928	3,116
経常利益	5,922	10,797
特別利益		
投資有価証券売却益	—	185
特別利益合計	—	185
特別損失		
減損損失	255	—
投資有価証券評価損	729	569
固定資産処分損	255	—
特別損失合計	1,240	569
税金等調整前四半期純利益	4,682	10,412
法人税等	1,389	4,404
少数株主損益調整前四半期純利益	3,292	6,008
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△16	85
四半期純利益	3,309	5,922
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△16	85
少数株主損益調整前四半期純利益	3,292	6,008
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,194	7,271
繰延ヘッジ損益	△293	△71
為替換算調整勘定	153	1,485
その他の包括利益合計	△1,334	8,686
四半期包括利益	1,958	14,694
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,974	14,482
少数株主に係る四半期包括利益	△16	211

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

	報告セグメント						その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (百万円) (注)3
	鉄鋼事業 (百万円)	金属原料 事業 (百万円)	非鉄金属 事業 (百万円)	食品事業 (百万円)	石油・ 化成事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高										
外部顧客への 売上高	516,418	69,887	51,024	68,435	315,950	1,021,716	93,696	1,115,413	—	1,115,413
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	13,166	1,834	1,354	591	4,514	21,461	31,421	52,883	△52,883	—
計	529,584	71,721	52,379	69,027	320,465	1,043,178	125,118	1,168,296	△52,883	1,115,413
セグメント利益又 は損失(△)	6,544	247	△146	536	1,185	8,366	971	9,338	△3,416	5,922

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、木材事業、機械事業、海外販売子会社等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失の調整額△3,416百万円は、主に事業セグメントに帰属しない収益及び費用であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

	報告セグメント						その他 (百万円) (注)1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注)2	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (百万円) (注)3
	鉄鋼事業 (百万円)	金属原料 事業 (百万円)	非鉄金属 事業 (百万円)	食品事業 (百万円)	石油・ 化成事業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高										
外部顧客への 売上高	577,387	68,687	55,790	61,703	351,895	1,115,464	112,214	1,227,678	—	1,227,678
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	14,900	2,821	1,229	1,072	6,083	26,108	37,280	63,388	△63,388	—
計	592,287	71,509	57,019	62,775	357,979	1,141,572	149,494	1,291,067	△63,388	1,227,678
セグメント利益又 は損失(△)	9,924	990	343	1,408	1,339	14,007	△77	13,929	△3,132	10,797

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、木材事業、機械事業、海外販売子会社等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失の調整額△3,132百万円は、主に事業セグメントに帰属しない収益及び費用であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。